

令和6年度 第1回 碧南市地域自立支援協議会 会議録

1 日時

令和6年6月25日（火）午前10時00分から午前11時25分まで

2 場所

へきなん福祉センターあいくる デイルーム

3 出席者

(1) 委員 20名

碧南市社会福祉協議会 中川 英治（委員長）

碧南市手をつなぐ育成会 三浦 志朗（職務代理）

日本福祉大学教授 青木 聖久

碧南市身体障害者福祉協会 磯貝 幸雄（鈴木 たか子の代理）

碧南市民生委員児童委員協議会 榊原 和弘

NPO法人ハートフルあおみ（あおみJセンター所長）水野 啓章

刈谷公共職業安定所碧南出張所 永田 吉則

愛知県衣浦東部保健所 後藤 恵子

愛知県立にしお特別支援学校 早川 浩史

碧南市小中学校校長会 杉浦 道文

親子の会「カラフル」 鈴木 由記

身体に障害のある子の親子の会「すまいる」 永井 美幸

ほっとまんまピアサポーター 杉浦 有美

碧南市農業委員会 永坂 邦男

スギ製菓株式会社 永坂 峰広

西三河南部西障害者就業・生活支援センターくるくる 川村 顕治

刈谷病院 水野 美香

サンフレア 高松 有美

就労センターオアシス碧南 中根 祐子

WHJ相談支援センターメビア 浅野 将克

ARTIST JAPAN 森脇 友理

(2) 事務局

福祉こども部長 深津 広明

福祉課長 山本 貴史

福祉課社会福祉係長 山本 昌弘

福祉課社会福祉係主事 畠山 和也

福祉課社会福祉係主事 矢野 友也

(3) 基幹相談支援センター（碧南市社会福祉協議会）

地域福祉課地域福祉係長 古川 裕隆

地域福祉課地域福祉係主査 小島 誠司

地域福祉課地域福祉係主事 坪井 優佳

地域福祉課地域福祉係主事 長谷川 祥子

地域福祉課地域福祉係主事 天野 好美

地域福祉課地域福祉係主事 久村 明弘

4 傍聴者

0人

5 議題

- (1) 障害福祉サービス等の提供実績について
- (2) 基幹相談支援センターの実績について
- (3) 作業部会の実績報告及び今年度の取組について

6 議事の要旨

(1) あいさつ（中川会長）

(2) 議題

ア 障害福祉サービス等の提供実績について

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

A委員：令和6年4月報酬改定について、障害児通所支援事業について、スタッフの経験年数等の質を問われる加算がある。今後、サービスにおける質の部分が大切になってくると考える。

B委員：A型では、月の収入が減少している。また、最低賃金が上がる一方で、商品の単価は上がりにくい状況である。商品の単価交渉を行ってもあまり単価が上がらない状態であり、事業所の継続について考えたこともある。しかし、市内の利用者の目標となるような事業所でありたいと思い、事業の継続を行うこととしている。

C委員：先の報酬改定に伴い、圏域内でもA型の閉所やB型への移行を行うケースがあると聞く。現在、各圏域内でA型の動向を確認している。事業所の閉鎖は簡単に行えるわけではなく、B型への事業転換も簡単にできるわけではないため、苦労がある。

イ 基幹相談支援センターの実績について

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

特に意見・質疑等なし。

ウ 作業部会の実績報告及び今年度の取組について

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

A委員：こども部会の年間スケジュールにて、全体会議を行う予定はあるか。情報交換のできる場が欲しいため、全体会議は行ってほしい。

事務局：今年度の開催予定はない。しかし、今後の開催の必要性については委員に確認する必要があると考える。

B委員：地域移行について病院などに働きかけを行ったのか。

事務局：平成29年ころに病院に対して働きかけを行い、地域移行のPRを行っていた。現在はPRを行えていない。今後、部会で検討したい。

C委員：医療的ケア児の対応について、碧南市の小中学校では看護師を配置しているのか。また、近隣市の状況はどうか。

事務局：医療的ケア児に対する看護師はいないと把握している。他市の現状については、高浜、碧南以外の自治体は配置を行っていると聞いている。

オ 学識経験者（日本福祉大学 青木聖久 教授）

4点のまとめをしたい。

①障害と高齢との連携。介護優先となる中でも、障害と介護が連携し支援を行うことで広がりを行うことが大切。障害者の高齢化が進んでいる。たがいに使えるサービスを共有したい。

②社会資源の活用。人にはストレスを感じることがある。しかし、様々な情報を得ることにより、新しい発見があると問題が隅に行くことがある。自分の中の問題の占める割合が少なくなる。使える社会資源を知ることが大切である。

③機会を設けることの大切さ。就労の機会があり、就労の中で社会資源が見えてくることもある。病院でピアサポーターが活躍している事例がある。事務、看護師、入院患者に様々な当事者としての話をするすることで、職員の意識改革を行うことができる。

④知る機会としての研修の必要性。人というのは研修を受けて理解すると、頭で理解できる、腑に落ちる理解は心での理解。リアルな事例は心に落ちる。頭と心で理解できる研修が良いのだと思う。

7 その他

事務局が会議資料に基づき、次回の会議予定等を説明した。

以上